

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201290		
法人名	有限会社 コーブンシャ		
事業所名	グループホーム ほのぼの平尾の家		
所在地	四日市市平尾町78-12		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町提出日	平成 23年 12月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470201290&amp;SCD=320&amp;PCD=24">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470201290&amp;SCD=320&amp;PCD=24</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成23年11月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普通の民家をグループホームに改修した建物の為、利用者様にはご自分の家で過ごしている様にゆったりと過ごして頂けるのではないかと感じています。  
自然が多く、畑では季節の野菜を収穫し、皆で美味しく頂いています。  
地域との関わりも多く、月一回のふれあい広場にも参加させていただき、交流を深めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四日市市西の郊外に位置し、周りは畑や民家がある静かな環境の民家改修型のホームである。ホームの前のうっそうとした竹藪が最近きれいに整地され、周辺が大変明るくなっている。民家改修といえ、建物は鉄筋建ての大きな家で、内部も広い廊下や二階にはベランダがあり、外階段も設備されている。地域とおつきあひも、収穫した野菜をいただいたり、地区で開催されている「ふれあい広場」へ積極的に毎月参加し、交流を推進している。利用者の笑顔や会話から、安心した生活を送られているのがうかがえる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく・地域とのつながりを大切に」を理念とし、誰もが目に付くリビングに掲示し、利用者がのんびり過ごして頂けるように家族的な雰囲気を大切にしていきたいと思います。	ゆっくりと、できることは一緒にする、普通の日々の暮らしを支援する理念に沿った介護を、管理者と職員は共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回の地域の行事にはできる限り参加させて頂いたり、散歩途中での会話等を大切にしている。近所の方々が畑の帰りに野菜を置いていってくださるので、皆で季節の話をしながら、下処理をしている。	地域とのつきあいは大切に考えている。自治会に加入し、市の広報誌も届く。地区で主催される「ふれあい広場」は毎月参加をして、地域の方との交流を図っている。また、10月にホームで親睦会を開催して、家族やボランティア、地区の方々をお招きした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加させてもらった際、高齢者の事で悩んでいる方がみえたら、話を聞いたりして対応させて頂いている。 推進会議にも参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、2カ月毎に開催しています。家族様、地域の皆様、出席者の方々からの助言を元にし、意見交換をさせて頂いています。	奇数月に開催をしている。ホームの現状を説明し、参加された方との情報交換をしている。災害など非常時に、食べ物などの提供の話が、参加された方から出るなど地域との協力を得ることが出来た有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議でお会いする程度で、あまり取れていない。	市へは運営推進会議参加のお願いや、会議の報告書の提出をするため、定期的に出向いている。他は、本部が行政との窓口になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、やってはならない事である為、職員全員が理解し取り組んでいる。	身体拘束にいたる利用者は現在いない。また、玄関は施錠していない。拘束についての研修は外部で受けているものの、ホームでの研修には至っていない。	マニュアルなどを用いて研修に取り組み、職員のレベルアップを図られるよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても全員理解している。 また、職員同士でも気がついたら互いに話あっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当グループホームでは対象者はいないが、内容については理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には詳細を説明させて頂き、不安・疑問などに関しては、納得して頂けるまで話をさせて頂く様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けているが、今まで利用された方はみえません。 家族様が面会に見えた際には話す機会をもち、状況をお知らせする様にしている。	運営推進会議に家族代表にも参加してもらい、意見表出の場になっている。また、面会が頻繁にあるので、様子をお知らせしながら、意向を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや申し送り時に話をし、管理者会議で伝える様にしている。	ミーティング時や申し送りなどで、管理者に意見要望を伝え、管理者は同一法人内での管理者会議の場で代表に提案している。今夏は暑い日が続き、すだれの設置や、居室で2人で共用していたエアコンをもう1台増やす要望が出され実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に話を聞いたりして管理者から代表者に伝え、改善できる点は改善してもらえよう、努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には進んで参加したり、社内に講師を招き、研修を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・意見交換会などに参加してもらい、他事業所のサービス等を参考にして、質の向上をめざしたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に、本人または家族様からこれまでの話を聞き、信頼関係が持てる様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後、本人の状況をその都度、面会時や電話で話をさせて頂き、その中での要望等も取り入れる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みから入所まで、何度かお話をさせて頂き、見極め、安心して頂ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の個性を活かしながら、家族の様な関係を築く様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の協力により成り立っているという事を常に頭におき、取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・知人等の面会や、外出等は要望通りに支援できるように心掛けている。	昔なじみの友人の訪問があり、大切なお客様として迎えている。また、家族と電話をする支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるように間に入ったり、一緒にできる事を見つけて孤立しないよう支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様から連絡があれば、対応・支援させていただきたいと思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の思いを読み取る様に努め、穏やかに過ごしていただけるよう、話合っている。	家族のように接して、思いを聞いている。また、様子や行動の中から、思いの把握に努めている。聞いた思いや意向は、申し送りやノートに書いて職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や家族様・本人の話から馴染みの物を持って来てもらったりして継続していけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事を見つけ出したり工夫したりして、楽しくより良く過ごしていただけるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングの時、1人ひとりのカンファレンスを行い、面会時に本人・家族様と話し合い、ケアプランを作成している。	介護支援専門員が本人、家族から聞き取ってチェックシートを作り、職員全員による担当者会議が開かれて介護計画書が作成される。月に1回カンファレンスをして、プランの検討をしている。計画書は3か月に1回の見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌を見れば一日の様子がわかる様に記録し、いつでも確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病気の受診や、日々の日用品の購入の代行等、忙しい家族様に代わって援助させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	平尾町の地区の方々の支援を受け、色々な行事に参加させてもらい楽しませていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全員、月2回の往診を受け、24時間態勢で連携を取っている。 往診時には受診表を記入し報告している。	近くのクリニックが協力医療機関で、全員の主治医である。居宅療養管理指導を受けており、月に2回往診がある。薬は家族がクリニックへ取りに行くことになっているので、薬を届けてもらったとき、医師の所見を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が出勤し、体調のチェックをしてもらっている。何かあれば電話対応や時間があればすぐに駆けつけてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様や病院のケースワーカーと連絡を取ったりして、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や家族様と十分話し合いを行い、そのまま継続したり、又は他施設を紹介させていただいたりしている。	重度化、終末期におけるホームの体制がないため、利用開始時にその旨説明し、あらかじめ特養などの申し込みをしてもらっている。主治医に往診してもらっているため、状態に応じた対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の看護師にミーティングやことある事に応急処置のやり方を教えてもらったり、指示を受け少しづつ身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	セコムを設置。 避難訓練も年2回実施。災害時の避難場所等についても、地域の方々の協力を得て、対応させてもらっています。	年に2回、消防署の指導を受けて、火災を想定した訓練を実施している。また、通報訓練を独自で行っている。今年の春は、夜間を想定した訓練を実施した。	毎日、出勤者で、避難誘導係り、消火係り、通報係りなどその日の役割を決め、毎日続けることで、職員の災害に対する意識の向上を図る取り組みをされるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に合わせた声掛けや、対応に心掛けるよう気をつけている。	利用者は家族であり、いつもコミュニケーションをよくとって信頼関係を築き、一人ひとりに合わせた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者からの要望には、家族様にも協力していただき、可能な限り応じるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日のペースに合わせて、対応するように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物、行事に合わせたメニュー。食べたい物などを聞いたりして、楽しく召し上がっていただけるよう工夫している。	家庭菜園で野菜を作り、食材にしている。献立は職員が利用者の希望を聞きながら、季節の旬のものを取り入れて作っている。利用者と一緒にスーパーへ買い出しに行くこともある。下ごしらえなどできることは職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ、ご飯の硬さ刻みなど気をつけている。 水分補給にも気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄・歯磨きを行い、夜間は洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄して頂ける様、時間を決め誘導するようにしている。 自立の方も汚染などないか、見守りはさせてもらっている。	トイレでの排泄を支援している。排泄の記録がされており、時間をみながら誘導をしている。夜間、ポータブルトイレの利用者も一部あるが、トイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録をつけ、水分補給・食事など気をつけている。 主治医と相談し、薬など服薬の方もみえる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2組に分け1日おきに入浴していただいている。 その日の状況に応じ、対応している。	毎日お風呂は沸かしているが、入浴は一日おきの交代で午前実施している。民家にしては、風呂のスペースが広く、小さい浴槽と普通サイズの浴槽の2つが設備されている。しょうぶ湯やゆず湯をして、季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に起きてみえる方には会話をしたり水分補給してもらったりと、その都度対応している。 室温などにも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬していただけるように側について見守りしている。誰が見ても判るように、ケースに分け保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味・特技・娯楽等を提供し、楽しんでいただけるように工夫をしている。 簡単な家事などもお手伝いしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい日は、毎日の散歩を心掛けている。 買い物・ドライブにも出かけたりしている。年に2回程外食にも出かけている。	近くに公園があり、散歩コースになっている。月に1回、地区公会所のふれあい広場への参加は、定期的なお出かけである。買い物や外食、ドライブなど外出する支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、全員ホームのほうで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、収穫した野菜を置いたりして季節を感じてもらえるようにしている。南側は陽射しが差し込み、明るく、日向ぼっこに最適である。	民家改修型で、「我が家」にいる雰囲気である。2階へ上がる階段が新たに改修されている。収穫した野菜を籠に入れて飾ったり、柿を飾るなど季節感を配慮している。周辺が畑、民家で藪がなくなって明るく静かな環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南側廊下に椅子を置き、利用者同士、又は職員と会話をしたりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた物などを置いたりして、自由に使ってもらっている。	1階は4室、2階が5室の配置になっている。1階は和室、2階はフローリングである。絨毯や置物など、自宅で使われていたものが持ち込まれているが、概ねシンプルな居室である。掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活していただけるよう、不備があればすぐ修理してもらったり、改善したりしている。 名前・場所等も個々の目線に合わせて表示している。		